

「サービス管理責任者基礎研修」標準カリキュラム

| 科目 | 内容・目的 | 時間数 |
|--|--|------|
| 1. サービス管理責任者の基本姿勢とサービス提供のプロセスに関する講義（7.5時間） | | |
| サービス提供の基本的な考え方 | サービス提供の基本的な考え方として、利用者主体の視点、自立支援の視点、エンパワメントの視点、ICFの視点、現実的な支援計画に基づくサービス提供、連携の必要性等について理解する。 | 60分 |
| サービス提供のプロセス | PDCAサイクルによるサービス内容を確認することの重要性とその方法、個別支援計画の意義を理解する。 | 90分 |
| サービス等利用計画と個別支援計画の関係 | サービス等利用計画における総合的な援助方針を導き出すプロセスを理解し、個別支援計画の出発点がサービス等利用計画の総合的な援助方針であることを認識する。また、サービス等利用計画が生活全体の範囲に及び、個別支援計画が生活全体をイメージしながらも事業所内サービスに重点を置いた計画であることを理解する。 | 90分 |
| サービス提供における利用者主体のアセスメント | サービス提供における利用者を主体としたアセスメントの考え方やその手法について理解する。また、障害種別や各ライフステージ、各サービスにおいて留意すべき視点について理解する。 | 150分 |
| 個別支援計画作成のポイントと作成手順 | 個別支援計画の作成におけるポイントと手順についての事例等を活用し、作成の視点がリスクマネジメントのみに陥らないように、エンパワメントの視点やストレングスの活用について理解するとともに、作成の手順を習得する。 | 60分 |
| 2. サービス提供プロセスの管理に関する演習（7.5時間） | | |
| 個別支援計画の作成（演習） | モデル事例を活用したグループワークにより、サービス等利用計画に示される総合的な援助方針、長期目標及び短期目標を踏まえて、個別支援計画の支援内容、担当者、連携の頻度等について検討する。それに基づき、支援目標、支援内容を設定し、個別支援計画を作成する。 | 270分 |
| 個別支援計画の実施状況の把握（モニタリング）及び記録方法（演習） | モデル事例を活用したグループワークにより、事業者が提供している支援のモニタリングについて、サービス等利用計画との連動性を念頭に置きながら、視点・目的・手法等を理解する。 | 180分 |
| 合計 | | 15時間 |

「児童発達支援管理責任者基礎研修」標準カリキュラム

| 科 目 | 内 容 ・ 目 的 | 時 間 数 |
|--|--|-------|
| 1. 児童発達支援管理責任者の基本姿勢とサービス提供のプロセスに関する講義（7.5時間） | | |
| 支援提供の基本的な考え方 | 支援提供の基本的な考え方として、利用者主体の視点、自立支援の視点、エンパワメントの視点、ICFの視点、現実的な支援計画に基づく支援提供、連携の必要性等について理解する。 | 60分 |
| 支援提供のプロセス | PDCAサイクルによる支援内容を確認することの重要性とその方法、個別支援計画の意義を理解する。 | 90分 |
| 障害児支援利用計画と個別支援計画の関係 | 障害児支援利用計画における総合的な援助方針を導き出すプロセスを理解し、個別支援計画の出発点が障害児支援利用計画の総合的な援助方針であることを認識する。また、障害児支援利用計画が生活全体の範囲に及び、個別支援計画が生活全体をイメージしながらも事業所内支援に重点を置いた計画であることを理解する。 | 90分 |
| 支援提供における利用者主体のアセスメント | 支援提供における利用者を主体としたアセスメントの考え方やその手法について理解する。また、障害種別や各ライフステージ、児童発達支援等において留意すべき視点について理解する。 | 150分 |
| 個別支援計画作成のポイントと作成手順 | 個別支援計画の作成におけるポイントと手順についての事例等を活用し、作成の視点がリスクマネジメントのみに陥らないように、エンパワメントの視点やストレングスの活用について理解するとともに、作成の手順を習得する。 | 60分 |
| 2. サービス提供プロセスの管理に関する演習（7.5時間） | | |
| 個別支援計画の作成（演習） | モデル事例を活用したグループワークにより、障害児支援利用計画に示される総合的な援助方針、長期目標及び短期目標を踏まえて、個別支援計画の支援内容、担当者、連携の頻度等について検討する。それに基づき、支援目標、支援内容を設定し、個別支援計画を作成する。 | 270分 |
| 個別支援計画の実施状況の把握（モニタリング）及び記録方法（演習） | モデル事例を活用したグループワークにより、事業者が提供している支援のモニタリングについて、障害児支援利用計画との連動性を念頭に置きながら、視点・目的・手法等を理解する。 | 180分 |
| 合 計 | | 15時間 |

「サービス管理責任者実践研修」標準カリキュラム

| 科 目 | 内 容・目 的 | 時間数 |
|---|--|--------|
| 1. 障害福祉の動向に関する講義（1時間） | | |
| 障害者福祉施策の最新の動向（講義） | ・障害者福祉施策の最新の動向について理解することにより、利用者の置かれている制度的環境の変化を認識する。 | 60分 |
| 2. サービス提供に関する講義及び演習（6.5時間） | | |
| モニタリングの方法（講義・演習） | ・事業所のモニタリングについて、サービス等利用計画との連動性を念頭に置きながら、モニタリングの視点・目的・手法等について講義により理解する。事例を通じて、モニタリングの演習を行い、その手法を獲得する。 | 120分 |
| 個別支援会議の運営方法（講義・演習） | ・個別支援会議の意義、進行方法、会議において行うべき事項（個別支援計画作成時、モニタリング時）等について講義により理解する。 ・個別支援会議における合意形成過程について、模擬個別支援会議の実施体験演習を通じて、サービス管理責任者としての説明能力を獲得する。 ・模擬個別支援会議の体験をもとに、個別支援会議におけるサービス管理責任者の役割についてグループワーク等により討議し、まとめる。 | 270分 |
| 3. 人材育成の手法に関する講義及び演習（3.5時間） | | |
| サービス提供職員への助言・指導について（講義・演習） | ・サービス提供職員への支援内容、権利擁護・法令遵守等に関する確認や助言・指導を適切に実施するための方法等について講義により理解する。 ・講義を踏まえて、受講者が事業所において実施している助言・指導業務について、グループワーク等により振り返るとともに、今後の取り組み方について討議する。 | 90分 |
| 実地教育としての事例検討会の進め方（講義・演習） | ・事例検討会の目的、方法、効果等について講義により理解する。また、事例検討会の実施がチームアプローチの強化や人材育成にも効果を有することを理解する。 ・受講者が持ち寄った実践事例をもとに、事例検討会を行うことで、事例検討会の進め方を習得する。 | 120分 |
| 4. 多職種及び地域連携に関する講義及び演習（3.5時間） | | |
| サービス担当者会議等におけるサービス管理責任者の役割（多職種連携や地域連携の実践的事例からサービス担当者会議のポイントの整理）（講義） | ・多職種連携や地域連携の実践事例を活用し、サービス担当者会議等におけるサービス管理責任者の役割（相談支援専門員との連携や関係機関との連携方法）について理解する。 | 50分 |
| （自立支援）協議会を活用した地域課題の解決に向けた取組（講義） | ・（自立支援）協議会の意義、目的、活動内容等について理解する。 ・サービス管理責任者の業務を通して見出される地域課題を解決するための（自立支援）協議会の活用について実践報告等により学ぶ。 | 50分 |
| サービス担当者会議と（自立支援）協議会の活用についてのまとめ（演習） | ・サービス担当者会議や（自立支援）協議会に関する講義を踏まえ、多職種連携や地域連携の重要性、意義、ポイントについてグループワーク等による討議を通じて、連携のあり方についてまとめを行う。 | 110分 |
| 合計 | | 14.5時間 |

「児童発達支援管理責任者実践研修」標準カリキュラム

| 科 目 | 内 容・目 的 | 時間数 |
|---|--|--------|
| 1. 障害福祉の動向に関する講義（1時間） | | |
| 児童福祉施策の最新の動向（講義） | ・児童福祉施策の最新の動向について理解することにより、利用者の置かれている制度的環境の変化を認識する。 | 60分 |
| 2. サービス提供に関する講義及び演習（6.5時間） | | |
| モニタリングの方法（講義・演習） | ・事業所のモニタリングについて、障害児支援利用計画との連動性を念頭に置きながら、モニタリングの視点・目的・手法等について講義により理解する。事例を通じて、モニタリングの演習を行い、その手法を獲得する。 | 120分 |
| 個別支援会議の運営方法（講義・演習） | ・個別支援会議の意義、進行方法、会議において行うべき事項（個別支援計画作成時、モニタリング時）等について講義により理解する。 ・個別支援会議における合意形成過程について、模擬個別支援会議の実施体験演習を通じて、児童発達支援管理責任者としての説明能力を獲得する。 ・模擬個別支援会議の体験をもとに、個別支援会議における児童発達支援管理責任者の役割についてグループワーク等により討議し、まとめる。 | 270分 |
| 3. 人材育成の手法に関する講義及び演習（3.5時間） | | |
| 支援提供職員への助言・指導について（講義・演習） | ・支援提供職員への支援内容、権利擁護・法令遵守等に関する確認や助言・指導を適切に実施するための方法等について講義により理解する。 ・講義を踏まえて、受講者が事業所において実施している助言・指導業務について、グループワーク等により振り返るとともに、今後の取り組み方について討議する。 | 90分 |
| 実地教育としての事例検討会の進め方（講義・演習） | ・事例検討会の目的、方法、効果等について講義により理解する。また、事例検討会の実施がチームアプローチの強化や人材育成にも効果を有することを理解する。 ・受講者が持ち寄った実践事例をもとに事例検討会を行うことで、事例検討会の進め方を習得する。 | 120分 |
| 4. 多職種及び地域連携に関する講義及び演習（3.5時間） | | |
| サービス担当者会議等における児童発達支援管理責任者の役割（多職種連携や地域連携の実践的事例からサービス担当者会議のポイントの整理）（講義） | ・多職種連携や地域連携の実践事例を活用し、サービス担当者会議等における児童発達支援管理責任者の役割（相談支援専門員との連携や関係機関との連携方法）について理解する。 | 50分 |
| （自立支援）協議会を活用した地域課題の解決に向けた取組（講義） | ・（自立支援）協議会の意義、目的、活動内容等について理解する。 ・児童発達支援管理責任者の業務を通して見出される地域課題を解決するための（自立支援）協議会の活用について実践報告等により学ぶ。 | 50分 |
| サービス担当者会議と（自立支援）協議会の活用についてのまとめ（演習） | ・サービス担当者会議や（自立支援）協議会に関する講義を踏まえ、多職種連携や地域連携の重要性、意義、ポイントについてグループワーク等による討議を通じて、連携のあり方についてまとめを行う。 | 110分 |
| 合計 | | 14.5時間 |